

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実 施 報 告 書

HT29056 ことばを美味しく研究しましょう—お料理サイトで言語学入門—



開 催 日: 平成29年8月10日(木)

実 施 機 関: 筑波大学

(実施場所) (CEGLOC 棟)

実施代表者: 島田 雅晴

(所属・職名) (人文社会系・准教授)

受 講 生: 中学生15名

関 連 URL: <https://sites.google.com/view/hiram-ekitokimeki-gengogaku/>

【実施内容】

本プログラムは中学生を対象とした理論言語学の入門です。受講者は創作料理レシピを紹介するサイトに見られる変わった創作料理名をデータにして、言語理論に基づいた英語や日本語の分析を体験しました。

● 受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点

次のような点に留意して、実施いたしました。

- ・予習用の資料やホームページを作成し、前もって自学自習して講座にのぞめるようにした。
- ・本科研費研究課題をよく理解している他大学の研究者にも実施協力者として参加してもらった。
- ・多くの大学院生、さらには学群生にも、実施協力者として講義・実習時はもちろん、休憩時間等においても受講者と積極的に交流を図ってもらい、講座全体が和やかな雰囲気の中進むように心がけた。
- ・実習内容に関係のある昼食を特別に用意し、受講者、実施者の気持ちがさらに高まるようにした。
- ・実習においては、クイズ形式の問いを入れるなど、受講者の積極的な参加を促した。
- ・実習結果や未学習内容、実施協力者の感想等を盛り込んだ報告書を受講者に後日送付することにした。

● 当日のスケジュール

午前に実施代表者が講義を、午後に実施協力者が中心になって実習を行い、相互に関連をもたせて内容の理解を促しました。当日の予定スケジュールは以下の通りで、おおむね予定通りに実施できました。

9:00～ 9:15	開会式、科研費の説明
9:15～ 10:00	講義 ① “beans on toast”ってどんなお料理？
10:00～10:15	休憩
10:15～11:00	講義 ② おもしろい料理名 —それって間違った英語？—
11:00～11:10	休憩
11:10～11:50	ディスカッション・質問タイム
11:50～13:00	昼食・交流会
13:00～13:15	実習説明
13:15～14:15	実習 ① 言語データを分析しよう① —お料理の名前をあててみよう—

- 14:15～14:30 休憩
- 14:30～15:15 実習 ② 言語データを分析しよう② —お料理に名前をつけてみよう—
- 15:15～15:45 休憩・ティータイム
- 15:45～16:30 ディスカッション・質問タイム
- 16:30～16:50 未来博士号授与式、アンケート用紙記入
- 16:50～17:00 閉会式

● 実施の様子

➤ 午前の講義の様子



午前の講義の様子



宿題の課題に挑戦



院生の経験談も聞きました

➤ 昼食の風景



当日のお弁当



昼食会場



大学院生、学群生と昼食中

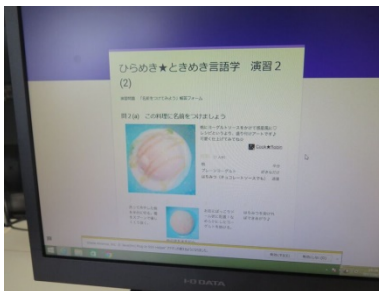
➤ 午後の実習の様子



CALL 教室での実習



まずは自己紹介タイム



本日の実習課題



大学院生と課題に挑戦 ①



大学院生と課題に挑戦 ②



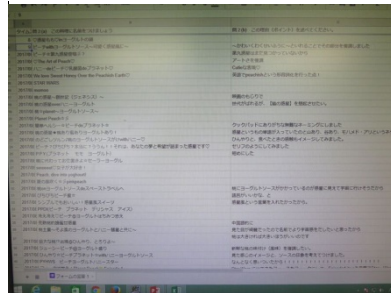
大学院生と課題に挑戦 ③



言語学について院生が語ります



質問に院生が答えます



本日の研究成果です

● 事務局との協力体制

本部、人文社会系、CEGLOC 棟の各事務局が適切に役割分担をして、一致協力して実施しました。

● 広報活動

つくば市教育委員会の後援を得て、実施代表者と分担者、協力者の大学院生が分担して市内の全中学校および近隣のいくつかの中学校を訪問して広報しました。また、市役所や図書館にもポスターを掲示しました。さらに、広報用ポスターを関東全ての中学校と全国の教育委員会に送付しました。

● 安全配慮

コンピューターによる実習が多くなるため、受講者が疲弊しないように注意しました。また、お弁当の配付に際しては、受講者のアレルギーの有無にも注意を払いました。

● 今後の発展性、課題

本講座の基盤となっている科研費研究は順調に進んでおり、今後さらなる進展が見込まれますので、この限りにおいては本講座も内容を充実させながら継続していけるものと考えられます。また、受講者および実施者に対するアンケート結果も比較的良好でしたので、この点からも今後の実施を検討していいと思われます。

課題を2点あげます。今回好評を得た理由の一つに、実施協力者である一貫制博士課程の大学院生、学群生がまるでチームで共同研究をするかのように一丸となって積極的に関与したことがあげられます。特に、大学院生は、研究に本気で取り組んでいるがゆえに、研究成果を社会に還元することの重要性をよく理解しています。本講座の実施には、このように毎日研究に専念している気鋭の学生の力が必須です。そのためには研究型大学院で本格的に研究者を目指す文系大学院生が安心して研究に専念できる環境の維持・整備と彼らに対する社会の理解が必要で、それが課題になってくると思われます。

もう一つの課題としては、近隣の中学校からの参加者がほとんどいなかったことがあげられます。近隣校への直接訪問や市役所、図書館へのポスター掲示は全く功を奏しませんでした。今回の受講者の多くはすでに「ひらめき☆ときめきサイエンス」への参加経験者で、いわば、「ひらめき上級者」です。これまでの好印象で今回も受講してくれたようです。経験者、新規者それぞれに対して広報を工夫する必要があると思われます。

【実施分担者】

小野 雄一 人文社会系・准教授

山村 崇斗 人文社会系・助教

【実施協力者】 13 名

【事務担当者】

塚本 和代 研究推進部外部資金課・係長